

## I 学校の概要

### 学習意欲向上モデル事業 三豊市立詫間小学校

#### ◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
3学級 76名	3学級 74名	3学級 76名	2学級 60名	3学級 72名	3学級 68名	2学級 7名	19学級 433名

○教員数 31名

#### ◆学校の特色

- (1) 全校生433名、教員31名の、三豊市で最も大きな学校である。体験的・活動的な学習を好む児童が多く、児童の学力の実態としては、個人差が見られる。
- (2) 平成26・27年度は、望ましい食習慣の形成により、自ら考え実践できる児童の育成を目指して取り組んできた。昨年度からは、学習の基本である「2つのきく（聴く・訊く）」態度に重点をおき、基礎的な学力の定着を土台とし、主体的・協働的に学習に取り組む児童の育成を目指して取り組んでいる。
- (3) 家庭学習の習慣については、ほとんどの児童が与えられた課題はきちんとできているが、自主的な学習や読書に取り組む児童は少ない。また、就寝時刻が遅い児童が全国平均と比べて多い傾向にある。

## II 研究主題等

研究主題

「こころはずむ、主体的に学ぶ授業づくり」  
— 互いに学び合い、高め合う児童の育成 —

#### ◆研究主題設定の理由

本校では、「豊かな人間性と活力に満ちた、琢磨する子どもの育成」を学校教育目標とし、平成28年度から、主体的・協働的に学ぶ学習の充実を目指して、基礎的な学力の定着を土台とし、人と人とのつながりを実感、尊重しながら、実践力を高めようとする意欲や心情を身に付けた児童を育成しようと取り組んできた。その結果、学力面ではまだ課題があるものの、自尊感情や学習意欲については、少しずつ向上が見られる。今年度は、児童が友だちや自分のよさを発見し、学習の楽しさや気付きの喜びを味わうことができるように授業展開を工夫することで、児童がさらに意欲的に学習に取り組むことができるようにしていきたい。そこで、児童が主体的に問題を発見し、解決していく場面を設定し、児童同士が協働的に問題を解決する経験を重ねていく授業づくりについて実践研究を進めていきたいと考え、上記の主題を設定した。

## ◆研究内容及び方法

### (1) 学習意欲を高める授業づくり

#### ・ 児童とともに作る学習問題

課題との出合わせ方を工夫し、情報や資料を選択したり、解決策を思考、判断したりする必要のある課題を児童とともに設定する。「みんなと相談したい」「友だちはどう考えているの」など、学び合いによって解決できそうな学習問題を設定し、課題解決に挑戦しようとする意欲を高める。

#### ・ 友だちと協働する学び方

思考ツールや発表ボードの活用で、自分の考えをまとめたり、他者の考えを受容したりしながら、問題解決意欲の高まりを図る。グループ編成や机の配置を工夫する。

#### ・ 振り返りの場の設定

思考の過程が分かるノート記録や表現物を活用し、自他評価を重ねることで、学習の成果や自分の考えの伸びを実感させる。学習の結果だけでなく、学習の過程を重視し、適切な評価や称賛を行う。

### (2) 学習意欲を高める環境づくり

#### ・ 学級内での支持的風土づくり

対話や応答など、コミュニケーション力育成のために、必要な日常生活における適切な言葉遣いの指導を行う。また、友だちのよいところを紹介しあったり、がんばりを称えあったりすることで、共感的な人間関係を育む。

#### ・ よりよい生活習慣に支えられた健康的な身体づくり

生活習慣調べを継続して実施し、家庭と連携した、早寝・早起き・朝ごはん・外遊びの習慣の推進により、心身の安定を図ることで学習に向かう準備を整える。

## Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

- 1 本校の「研究成果の参考となる10の指標」を作成し、年2回評価を行う。
- 2 児童や教職員の自己評価と保護者のアンケート調査を行い、2年間の変容を見る。
- 3 学習状況調査の調査結果について、分析を行う。（調査内容別及び観点別平均正答率の状況、個別の学習状況の把握。県平均や前年度の結果との比較）

## Ⅳ 研究成果の普及方法

- 学習参観や学校だよりを通して、教育関係者や保護者へ、研究の取組について周知、啓発活動を行うと共に、ご意見をいただき、今後の研究に生かす。
- 校内研修の授業研究において、協議会の場を設定し、参加者からの意見を共有し、研究に生かす。
- 香川の教育づくり発表会において、具体的な授業実践をもとに成果について普及するとともに、課題については他校から意見をいただく。